

回腸導管造設術後のストーマ周囲の皮膚保護

—バリケアシステム2・ウロストミーを使用して—

南6階病棟 発表者 二木美代子

金井都都・山上栄子・朴沢裕子・青木周子
藤原みつる・丸山公子・宮崎清子・橋本知子
村田明子・横山光子・安藤明子・小幡礼子

I はじめに

当科で、尿路変更の一つである、回腸導管造設術が行われて、5年目になる。

これまで、集尿袋として、手術直後より自己管理移行期まで、ラパックを使用してきたが、尿もれが激しく、ほとんどの患者が、皮膚かぶれを起こしていた。

そこで、手術直後から、ストーマ周囲の皮膚保護の必要性に着目し、皮膚保護作用のある「バリケアシステム2・ウロストミー」（以下バリケアと略す）を使用したところよい結果が得られたので、ここに報告する。

II 研究期間

昭和57年8月から昭和58年3月まで

III 目的

手術直後より、ストーマ周囲の皮膚保護をし、患者の精神的、身体的苦痛の緩和をはかる。

IV 研究方法

1. 装具と貼布方法について検討する。
2. 術直後から、患者4名にバリケアを使用する。

V 経過および実施

これまで、ストーマ周囲の観察がしやすく安価という理由で、人工肛門用の透明なラパックを使用してきたが、次のような問題があった。

術後2週間まで、腎盂、尿管、ストーマを経由し、スプリントカテーテルが留置されるため、装着が繁雑であり、処置に時間を要した。手術室より帰室後、すでに尿がもれていることもあり、多い時には、1日4～5回貼り換えていた。

装着時には、接着面どうして貼りついたりしわができたり、そのため、尿もれをおこしはがれやすく、皮膚の安静が保たれず皮膚かぶれを起こした。

皮膚かぶれに対し、皮膚保護剤として、カラヤゴム製品の使用、日光浴、赤外線療法、リンデロン、エキザルベなどの軟膏塗布を試みたが、期待される効果はなかった。

そこで、装具について、市販されている数種類を検討した結果（資料1参照）PHの緩衝作用があり、皮膚の保護をする・透明で2タイプのため、ストーマの観察がしやすく、処置が簡単にでき

るなどの利点の多いバリケアを使用した。(資料2参照)

また、貼布方法については、ストーマに関する学会や、講習会の内容を参考にして、ストーマ計測、補強方法などを取り入れ、装具の管理手順を作成した。(資料3参照)

その後、医師の協力を得て、術直後より、患者4名に、バリケアを貼布した。(資料4参照)

症例1は、術後6日、症例2は10日たっても装着面からの尿もれはなかった。

しかし、ストーマ周囲のバリケアが白く変色し、溶けはじめていた。はがして皮膚の状態を観察すると、症例1は、まったく変化がなかったが、症例2は、バリケアの溶けた部分に一致して、円形に発赤し、一部びらんを起こしていたため、すぐ貼り直し、2日後には、発赤にまで治った。

そこで、症例3、4は、症例2の経験に基づき、1日1回は、ユリナバックを取りはずし、直接ストーマ周囲のバリケアの溶け具合を観察した。そして、分泌物を取り除き尿の流れを良くした。

症例3は、バリケアが溶けはじめた術後4日目と7日目に交換した。

症例4は、術後1日目に、装着面からの尿もれがあり交換し、その後、バリケアが溶けて、4日目と10日目に交換した。どちらも、ストーマ周囲の皮膚に変化はなく、コロプラストへの転換がスムーズにできた。

VI 考 察

今回、バリケアを使用して、装着面からの尿もれは、あきらかに少なくなった。そのため、貼り換えによる刺激が減り、皮膚の安静が、保たれるようになったと考える。

しかし、装着面からの尿もれがないという理由で、皮膚の観察を怠り、貼り続けていたことは、安易であったと反省する。

バリケアが溶けるということに関しては、ストーマから流出する尿や分泌物の量と関係があることがわかった。

症例1で、術後6日間、バリケアを貼り続けても、皮膚に何の変化も生じなかったのは、この期間、ストーマからの尿量が少なかったためであろう。

しかし、症例2は、術後5日目より、尿量が増え、この頃から、バリケアが溶けはじめ発赤からびらんへと移行していたと思われる。

この結果、ストーマからの尿量が多い程、バリケアの溶け方が早まり、皮膚保護作用が減弱し、皮膚トラブルを招きやすい。溶けはじめる初期に、貼り換えることで、皮膚保護作用を継続することができると考える。

症例2においては、貼り換えて、2日後にびらんが発赤にまで治った。これは、バリケアが、かぶれた皮膚に対しても、皮膚の自然回復を促進させる作用があるためだと思う。

バリケアは、2タイプになっていることでいくつかの利点があることは、前に述べた。しかし、ストーマとバリケアの隙間に尿が停滞する。接続時の加力で、創痛が増強されるという欠点があった。それについては、分泌物を取り除いたり、ユリナバックを暖めることで、多少軽減できたが、十分とはいえないので、今後の課題としたい。

これまで、頻回に貼り換えるための皮膚の損傷と、「いつ尿がもれるかわからない」という不安で、患者は精神的、身体的苦痛が大きかったと思われる。

今回、装具を検討し、保護剤付きの装具に換えたことにより、この点は、改善できたと考える。

VII おわりに

今回の研究では、術直後の装具についてのみ、検討した。しかし患者にとって、装具は一生必要となるものであり、看護者として、個々の患者の生活環境や経済面など考慮し装具の特徴をふまえた上で、より安楽な生活を送れるように、援助、研究を重ねていきたい。

この研究に際し、御協力いただいた方々に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 田村泰三：人工肛門管理におけるスキンケアー 日本大腸肛門病学会雑誌第33巻第6号 566 - 568 1980
- 2) 本多純男他：バリケアの臨床 薬理と治療 ライフサイエンス 1679-1699 1980
- 3) 阪本恵子他：人工肛門受術者の皮膚保護 看護技術 5 5-38 1980
- 4) 廣田文恵他：臨床看護 へるす出版 414-419 5 1981
- 5) 山本真理子他：第13回看護学会集録 日本看護協会 271-241 1982
- 6) 秋山隆弘他：ストーマ研究会 1982

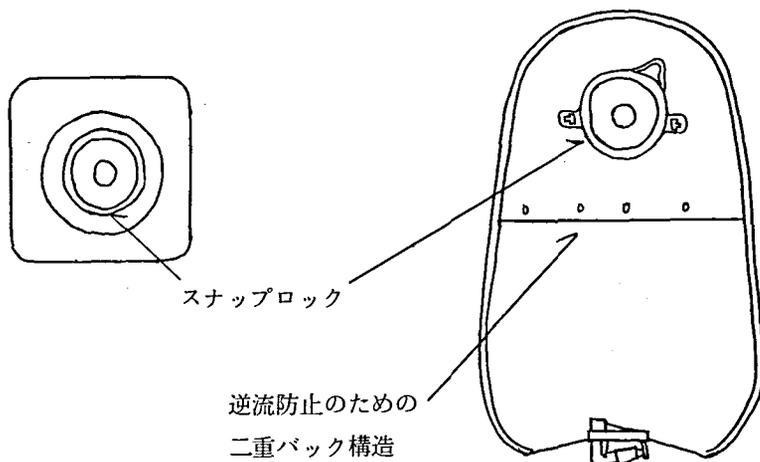
資料1

装 具 の 検 討

装 具	バリケア システム2	ラ バ ッ ク	コ ロ プ ラ ス ト	バ イ オ ユー リ ン A	バ イ オ ユー リ ン B (皮 膚 保 護 剤 付)
処置がしやすい	+	-	-	-	-
皮膚保護作用がある	+	-	-	-	+
ドレナージできる	+	-	+	+	+
透明である	+	+	-	-	-
その他	高価である	人工肛門用の装具である	最も多く使用されている		

バリケアフランジ

バリケアユリナバック



資料2

バリケアシステム2・ウロストミーについて

バリケアは、ストーマ管理における皮膚保護剤のひとつである。ゼラチン (20%)、ペクチン (20%)、ポリイソブチレン (40%) から構成されている。

① PHの緩衝作用

PHの刺激に対し、皮膚のPHに近い状態に維持する働き。

PH ; 12の強アルカリ NaOH 溶液に、バリケアを添加していくと10%程度までは、ほとんど変化はなかったが、50%近くなると、PH ; 6近くの弱酸性に傾くことが明らかになった。また PH ; 2の HCl 溶液では、10%程度で 4.5 近くになった。という報告がある。

② 菌の繁殖阻止作用

ストーマ周囲の皮膚には、体温などにより、雑菌が繁殖しやすい条件がそろっており、PHが7前後で菌の繁殖は増大する。バリケアは、PH 4.5 前後に保とうとするので、雑菌の繁殖が阻

止される。

③ 吸水作用・保水作用

④ 密着作用

カラヤゴムにも、①～④の作用はあるが、バリケアは、貼りつけたままで入浴も可能でありカラヤゴムに比べると、比較的長期耐用ができることで、カラヤゴムにまさるとされている。

バリケアシステム2・ウロストミーは、バリケアフレンジとバリケアユリナバックの2タイプからなり、2つはスナップロックで完全に密着する。また、ユリナバックの方向が自由に変えられるので、便利である。

資料3 バリケアの貼布方法のポイント

1. バリケアの切り方

①ノギスでストーマ計測をする

②ストーマの大きさより、1mm大きく切り、指先で角をとる

2. 清潔

①ガーゼで分泌物を拭きとる

②微温湯でストーマ周囲を清拭

③ドライヤーで皮膚を乾燥させる

3. 貼る順序

①バリケアを体温程度に暖める

②おちついてバリケアを貼る

③上からおさえ（特にリング内）皮膚に密着させる

④ストーマとバリケア隙間はペーストでうめる

⑤ユリナバックをとりつける

資料4

症例	術後日数 尿量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		83才 男性	右 スプリントカテーテル ml 左 スプリントカテーテル ml ストーマ ml 体温 ℃	761 478 182 37.6	743 679 10 37.2	628 486 0 37.2	609 505 25 37.6	597 551 0 37.7	900 900 10 37.7	950 800 10 37.4	1000 1000 10 37.4	850 800 200 36.3	700 400 35 36.8	650 690 120 37.1	37.1
70才 男性	右 スプリントカテーテル ml 左 スプリントカテーテル ml ストーマ ml 体温 ℃	722 930 30 37.8	745 720 0 36.8	558 506 0 37.3	623 734 0 36.8	728 967 500 37.0	152 750 700 38.1	1300 700 400 37.0	600 900 400 37.5	100 500 300 36.3	0 750 700 36.5	100 600 700 36.3	0 600 800 36.8	1200 37.8	1700 バリケア交換
64才 女性	右 スプリントカテーテル ml 左 スプリントカテーテル ml ストーマ ml 体温 ℃	228 922 226 37.7	491 1245 287 37.6	356 630 38 37.4	282 800 201 37.6	1200 1100 30 37.6	1250 1000 500 37.9	1800 1000 500 36.2	2450 1800 1800 37.8	1800 1450 1800 37.9	1450 1500 1500 38.2	1500 1600 1600 36.8	1600 1500 38.6 37.6	1500 37.6	1500 コロプラスト
54才 男性	右 スプリントカテーテル ml 左 スプリントカテーテル ml ストーマ ml 体温 ℃	949 935 0 37.2	1237 1099 0 37.9	1000 1100 5 37.6	1100 1400 100 37.8	700 1100 1500 37.4	2700 3350 1800 37.4	3350 1800 1350 37.0	1800 1350 1700 37.1	1350 1700 1800 37.4	1700 1800 1800 37.5	1800 1800 1800 37.2	1800 1500 37.2 37.2	1500 37.1	1700 バリケア交換 両カテ抜去

注 症例は4例とも、パッチテスト（-）である。

体温は、その日の最高体温を示す。